



# グローバル探究ライフ

コンフォートゾーンから飛び出すことで、学校生活ではできない出会いや体験ができるのが留学。その経験者たちに、リアルな留学ライフと気持ちの変化について語ってもらうシリーズです!

File No.16



澤谷萌生さん (20歳)  
札幌日本大学高校(北海道・私立)卒業

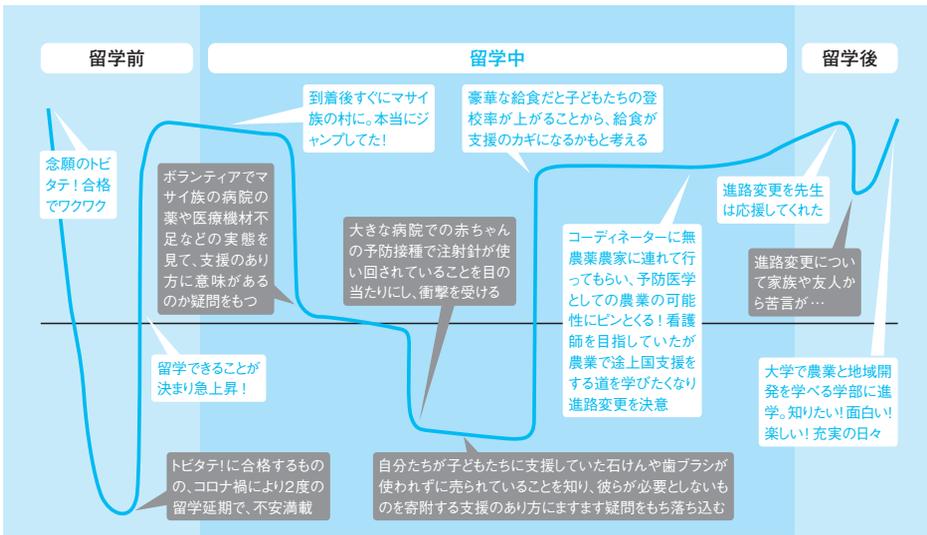
看護師として将来、国境なき医師団の一員になり発展途上国の人を助けたいと思っていたが、タンザニア留学で現地の実態を知って、医療者になるより農業や食で健康を守りたいと進路を変更。現在は日本大学生物資源科学部でフィールドワーカーを目指し勉強中。

## 現地で実態を目の当たりにし 留学中に進路選択が変わった

看護師をしている母の影響で、子どもの頃から看護師を目指していました。中学生の時に国境なき医師団のパンフレットでアフリカの貧困と医療の貧しさを知り「看護師としてアフリカの人を助けたい」という使命感に駆られました。そのためアフリカに留学したいと考えて、母校の札幌日本大学高校がトビタテ!の制度で多数留学生を輩出していると聞いて進学を決意したのです。

志望理由書の添削などをしてくれる学校の手厚いサポート態勢のおかげで、念願叶ってトビタテ!に合格。しかし、公衆衛生のボランティアとして実際にタンザニアに行ってみると、想像以上の医療不足の状況や生活文化の違いに、目指すべきは看護師ではないと思いはじめたのです。その時に無農薬農家と出会い、農業や食料から健康を守ることに関心が移り、進路希望が変わりました。

高3の留学で帰国後の進路変更にも、私の興味にマッチした学部を先生が紹介してくれ、今とても楽しく学んでいます。



### DATA

- 【留学した年齢】**  
18歳
- 【留学した国】**  
タンザニア
- 【留学期間】**  
高校3年の7月から2週間
- 【留学内容】**  
公衆衛生のボランティアに携わるプログラム
- 【留学しようとおもったキッカケ】**  
中学生の頃からアフリカに留学したいと考え、「トビタテ!留学JAPAN 日本代表プログラム」に多数実績がある札幌日本大学高校に進学し実現。
- \*「トビタテ!留学JAPAN 日本代表プログラム」(以下、文中では「トビタテ!」)とは文部科学省が官民協働で留学促進を展開するキャンペーンによる留学支援制度。



タンザニアに到着直後に行ったマサイ族の子どもの笑顔にテンションがあがる。

子どもたちが撮ってくれたけど指が入ってる(笑)



病院見学で予防接種に来ていた赤ちゃん。この赤ちゃんも使い回しの注射針で接種されていた。



ホストファミリーとの食事中。タンザニアの家庭料理を頂く。



進路変更のきっかけとなった無農薬農家さんとの出会い。複数の野菜を植える相乗効果で成長しやすくなるとのこと。

HIV患者さんの家を訪問し、罹患した原因や現在の状況などをヒアリング。



片道2時間かけて学校に通う子どもたち。この日はバスで近くまで送った。

文化体験でトラディショナルダンス

